

小噺・落語入門サロン

■ 前座 (今日の話題・話のネタ)



「ヒライ信」カタカナ語③さ行 オンライン落語・講演③

落語に出てくる川柳・狂歌・ことわざシリーズ

「春浮気、夏は元気で、秋ふさぎ、冬は陰気で暮はまごつき」

古来より春夏秋冬（四季）の移ろいを漢字で詠う戯れ歌がある。

四季を詠んだ歌に「春椿 夏は榎で 秋楸 冬は柵で 同じく桐」と平安の歌人・小野篁は歌字尽で、木偏の「春夏秋冬」をこう詠んだ。

これを式亭三馬がもじって、小野 愚 嘘字尽で「春夏秋冬」に人偏をつけてこう詠んだ。

この歌が出てくる落語「掛取り万歳」

借金がたまった夫婦が、借金取りを追い返す作戦を練る。まずは大家は蜀山人の狂歌に凝っているので狂歌攻め「貧乏の棒は次第に太くなり振り回されぬ年の暮れかな」大家は乗せられて「貸しはやる借りは取られるその中に梅桜の杉（すぎ）まで松（まつ）としよう」と帰ってしまう。次は魚屋の金さん。喧嘩っ早い性格なので、彼が「借金をとるまでは、テコでも動かない」と言ったのを逆手に取って、「金が入るまで、そこに何十年でも座っている」とやり返し押し問答のうちに、ツケが帳消しにする。三河屋の主人は三河萬歳の才蔵に見立て、三河萬歳の太夫の調子で「待っちゃろか。待っちゃろか。待っちゃろかと申さあば。ひと月ならひと月目、ふた月ならふた月目、こけらあじゃ、どうだんべえ」とはやす。「なかなか、そんなことじゃあ勘定なんかできねえ」「できなければ、待っちゃろか」とするうちに、「ならばいつ払えるんだ」と問うと、「ああら、ひゃあく万年もオ、過ぎたなら払います」

■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ

「無人島の小噺に学ぶ、表現方法」

そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

■ 大喜利

今回も 謎かけ で、お題は「亀」「さつまいも」とかけて

次回は2022年1月10日(月)「鶴」「寅」